

実践報告（実践校２年目）

鹿屋市立輝北小学校

1 はじめに

本校は、鹿屋市の北西部に位置し、今年で開校 7 年目を迎える。各学年 1 学級ずつ、児童数 114 名の学校である。

子どもたちの実態として、本を読むことは好きだと答えていて、図書室へ足繁く通う姿が見られる。しかし、普段の学習やテスト等の結果から、文章をきちんと読んでいないことがうかがえる。文章を読んでいる子どもでも、内容を十分に理解したり、考えを表現したりする力に課題が見られる。また、意識調査から自分の考えや感想を書いたり、友達の前で発表したりすることへの苦手意識を持っていることが分かる。

そこで、様々な形で子どもたちの学力向上を図る取り組みができないかと考えて、昨年度より NIE 実践の指定を受けた。今年度は、1 年目の反省を踏まえ、実践を重ねてきた。

2 本校の実践目標

- ① 新聞に興味を持たせ、社会の出来事に関心を持たせる。
- ② 新聞を活用し、語彙力を高める。
- ③ 文章を読み取る力を高める。（5W1Hを意識しながら読む。）
- ④ 新聞を通して意見交流をしたり感想を書いたりすることで、表現力を高める。
- ⑤ 定期的にファミリーフォーカスを実施し、親子で語り合う場を設ける。

3 本校の具体的な実践内容

- ① はげみの時間（朝の業間活動）で、各学年に応じた取組を実施する。
- ② みなみ edu を活用し、週末の課題に利用したり各教科等の指導に生かしたりする。
- ③ 各教科等での新聞活用を進めるために、実践例を紹介する。
- ③ 講師（新聞記者）を招き、児童への講話や職員研修を実施する。
- ④ 校内掲示板（作品掲示・委員会による「今日のスクラップ記事」等）、校内に新聞コーナー（NIE コーナー）を設ける。
- ⑤ 各教科、道徳、総合的な学習の時間での新聞活用を進める。
- ⑥ 学校便り等で、NIE への取り組みを保護者に知らせ、保護者への協力を求める。

4 実際

① 「はげみの時間」での取り組み

本校では、毎週金曜日の朝に「はげみの時間」として学力向上に取り組む時間を設けている。今年度は、「はげみの時間」の中で月に 1 回、NIE に取り組む時間を設けた。各学年、工夫した取り組みが見られた。

【低学年】

- ・ 平仮名・片仮名探し
- ・ お気に入りの写真を探す（感想を発表する）



【中学年】

- ・ 学習した漢字を探す。
- ・ お気に入りの写真を見つけて感想を書く。
- ・ グループ対抗都道府県探しゲームなどを行う。
- ・ 記事の内容が相手に伝わるように工夫して、見出しや写真を切り貼りする。



【高学年】

- ・ 新聞を読む。
- ・ 新聞を切り貼りし、感想を書く。
- ・ グループ対抗国探しゲームなどを行う。
- ・ みなみ edu のワークシートに取り組む。



② みなみeduの活用

上学年では、週末の課題としてみなみ edu のワークシートを利用していた。ワークシートは、学級に掲示したり NIE 掲示板に掲示したりした。



③ 実践例紹介を兼ねた職員研修の実施

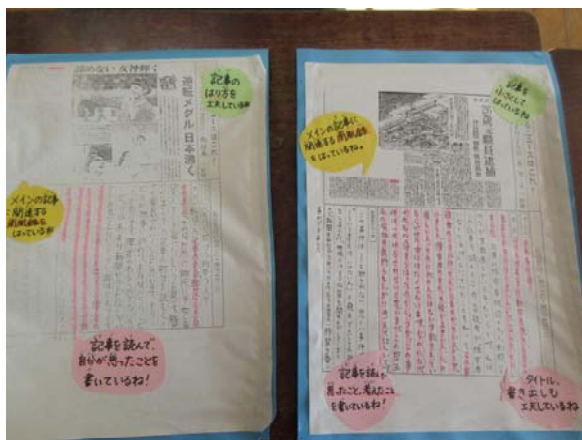


NIE への共通理解を図り、学校としての取組を考えるために、5月に職員研修を実施した。様々な活動を紹介したり、学校としての取り組む目標や実践の具体的内容について確認を行った。その後、各学年部でのファミリーフォーカスやはげみの時間の取組について話し合う時間を設けた。

④ NIE コーナーの設置

階段横の掲示板に NIE コーナーを設け、NIE についての説明を掲示した。また、各学年で取り組んだ NIE の作品を掲示できるようにした。

夏休み前には、4年生から6年生を対象に、夏休みの課題で「新聞よむのびコンクール」の作品募集を行った。事前に、NIE コーナーに昨年度の優秀作品を掲示し、どのようなところがよいか等、ポイントを示して子どもたちの意識を高めるようにした。



⑤ 新聞活用を進める



○ ひろば欄の活用

多くの学年で作品を読み聞かせしたり、自分たちの作品を投稿したりしていた。投稿された児童の作品は校内に掲示した。

○ 上学年では、国語の授業で新聞を活用した学年もあった。

- ・ 4年 国語「新聞を作ろう」
国語「アップとルーズで伝える」
- ・ 5年 国語「新聞を読もう」
- ・ 6年 国語「漢字の熟語を探そう」

⑥ 保護者への啓発活動

「学校だより」で、NIE の取り組みについて保護者に伝えたり、NIE コーナーで NIE について知らせたりした。上学年では、週末の課題で児童が取り組んだワークシートに保護者に一言コメントをもらえるようにした。



5 成果と課題

【成果】

- ☆ 学年ごとにワークシートを活用したり、ゲーム感覚で新聞を取り扱ったりと工夫した取組ができた。
- ☆ 子ども新聞も併せて購入したことで、新聞を手にする子どもたちが増えてきた。
- ☆ 授業の中でも、「新聞を見ればいい」という言葉が出ることがあった。
- ☆ 総合的な学習の時間で調べたことを新聞にまとめる活動を通して、調べて分かったこと、考えたことを分かりやすく表現する力がついてきた。
- ☆ 高学年では、家族で新聞記事を読んだり感想を交流したりして、親子のコミュニケーションを図ることができたと考えられる。

【課題】

- ★ NIE コーナーを設置したが、定期的に更新できなかった。
- ★ ファミリーフォーカスへの取り組みをもっと工夫していきたい。
- ★ 「はげみの時間」についての各学年の取り組み状況を次年度に引き継ぎ、よりよいものにしていく必要がある。
- ★ 家庭での新聞購読率が低い。そのため、学校でなければ新聞を目にすることがない児童も多い。教師側からの声かけがなくても、新聞を手にとるような手立てが必要である。